

女もすなる Jiu-jitsu:
二十世紀初頭のイギリスにおける女性参政権運動と柔術
English Women Do Jiu-jitsu
The Women's Suffrage Movement and its Jiu-jitsu Practices
in the Early Twentieth Century England

岡田 桂

関東学院大学文学部比較文化学科

Kei OKADA

Kanto Gakuin University, Faculty of Letters, Department of Cultural Studies

キーワード: イギリス、女性参政権運動、柔術、身体文化、文化伝播

Key words: suffragette, jiu-jitsu, physical culture, cultural diffusion

抄 録

本稿では、二十世紀初頭のイギリスにおいて、女性参政権運動家たちによって実戦の手段として柔術が学ばれ、その運動の後期にはリーダーを警察権力から守るため女性による柔術ボディガード団が結成されたという事例を考察する。イギリスでは十九世紀末から柔術がブームといえるほどの急激な広がりをみせたが、本論ではまず、女性による実践に先立つイギリス社会への柔術の浸透を先行研究に基づいて説明する。続いて、如何にして女性参政権運動と柔術が結びついていくことになったか、さらには当時のイギリス社会で女性による柔術実践というものがどのように表象され、認識されていったのかを、新聞や雑誌メディアの資料に基づいて検討する。そして、当時の世界において新興国であった日本の柔術という文化が、近代という時代の中心に位置した当時のイギリスに伝わり、その意味を変容させながら定着したという文化伝播の事例として位置づけ、文化が経済・社会的諸力から離れて一定の自律性を持つという文化ヘゲモニー論の説明可能性の一つとして提示する。

スポーツ科学研究, 10, 183-197, 2013 年, 受付日:2013 年 2 月 28 日, 受理日:2013 年 9 月 25 日

連絡先: 岡田桂 関東学院大学文学部比較文化学科 〒236-8502 横浜市金沢区釜利谷南 3-22-1

E-mail: kokada@kanto-gakuin.ac.jp